

令和元年度第3回岡山県和牛改良委員会 議事概要

- 1 日時 令和2年3月16日（火）10：30～
- 2 場所 岡山県農林水産総合センター畜産研究所（美崎町北）
- 3 出席者 委員：10名 事務局：4名
- 4 諮問事項

（1）直接検定終了牛等の措置について

今回、直接検定が終了した3頭についての措置案が示された。

直接検定が終了した3頭のうち、先ず「45光玉2」は、やや体高が低く、均称に劣ることから去勢後肥育されることとされた。なお、新岡光81号の産子は45光玉2号のほかに、まだ直接検定中の牛がいるとのこと。「福乃茂」は体高が1.6σとやや高いが、特に前軀の幅に優れ、育種価、ゲノミック育種価ともに高い数値であることから選抜することとされた。「波乃光」は均称に優れるものの、前軀の幅、深みが惜しまれ、育種価、ゲノミック育種価ともに他の2頭に劣ることから去勢後肥育されることとされた。

次に、4月以降に開始される直接検定の予定牛について紹介され、新岡光81号の産子でレベルの高いものがあることが紹介された。

（2）後代検定終了牛の措置について

【葵花国2】

検定牛13頭すべての検定が終了した。肉質は雌でばらつきが大きく、平均もやや低い。肉量では、ロース芯面積がやや小さく、皮下脂肪がやや厚い。また、脂肪交雑についてもこれまでの牛に劣る。血統から期待される肉量が足りず、肉質も既選抜のものに劣ることから、淘汰することとされた。

【晴乃国】

検定牛16頭すべての検定が終了した。肉質は雌でばらつきが大きく、肉量では、ロース芯面積がやや小さく、皮下脂肪はやや厚い。先の葵花国2号より優れるが、花国号の産子で検定中の「秋藤花国」の成績を見て措置を検討することとされた。

検定牛の雌のうち、特に枝肉重量が小さかったものがあったが、今回は平均から除いていない。

（3）第12回全国和牛能力共進会について

- ・事務局から、本日、開催が中止された令和元年度第2回出品委員会の内容が報告された。説明の中で、全国和牛登録協会から道府県別出品割当頭数が示されたこと、候補牛の作出状況、及び候補牛に係るワクチン助成などが説明された。

（4）その他

- ・岡山県和牛改良委員会規約第4条（組織）について

川崎委員から、和牛改良委員会の活性化と委員会における審議結果をより迅速に生産現場へ伝えることを目的に、新たな委員の変更と「晴れの国岡山農業協同組合」

設立に伴う委員変更について提案があった。

提案内容は生産者の代表として「岡山県種雄牛育成組合」「岡山県産和牛肉研究会」を追加するとともに、現在、各農協の委員を「晴れの国岡山農業協同組合」から代表で1人とするとの提案であった。

これに対し、杉山委員から農協合併しても各地域にある農協内の組織である和牛生産部会は解散することなく、存続することから、生産者の意見をとりまとめる者として各地域の農協の職員が委員を継続する必要があると、反論があった。

また、柴田委員から、登録協会岡山県支部の育種組合の体制と各地域の改良組合を掌理する体制の整備を検討しているところであるため、繁殖農家の代表であれば、「岡山県種雄牛育成組合」より改良組合を掌理する組合が望ましいとの意見があった。このことに馬場委員長他委員も賛同された。

さらに、末菅委員から、岡山県産和牛肉研究会はただの任意団体なので、あまりふさわしくないのではないかとの意見があった。

今回、4月1日に「晴れの国岡山農業協同組合」が発足するため、4月1日以降に、同農協畜産課から各事業所単位で委員を事務局に推薦することとされた。また、委員の追加については、登録協会岡山県支部の組織体制の整備とともに検討していくこととされた。

- ・岡山県和牛改良増殖対策要領

現在、国で家畜改良増殖目標が検討されているところであり、本県においても現状をしっかりと把握し目標を定めるため、県で改良目標を検討している旨の報告があった。また、出荷子牛の目標規格は、「おかやま四つ☆子牛」として推奨する規格とするとのことであった。

- ・ゲノム育種価が高い候補牛からの早期の後継種雄牛造成について

育種価評価前の若雌でもゲノミック評価により改良に活用しているところであるため、種雄牛候補作出にあたり、ゲノミック評価を活用し候補種雄牛から後継牛を作出する試みを行うと報告があった。

- ・凍結精液及び受精卵の流通適正化に係る法案の概要について

先般、和牛受精卵の不正輸出が発覚し、和牛遺伝資源の保護の必要性が検討され、これに関する法案が、今国会に提出されている。家畜改良増殖法の一部を改正する法律案及び家畜遺伝資源に係る不正競争防止に関する法律案について事務局から説明があった。